



兒雷也こらいや  
 豪傑譚こうけつだん  
 上の巻  
 第卅七第三十七



^13  
 3878  
 73

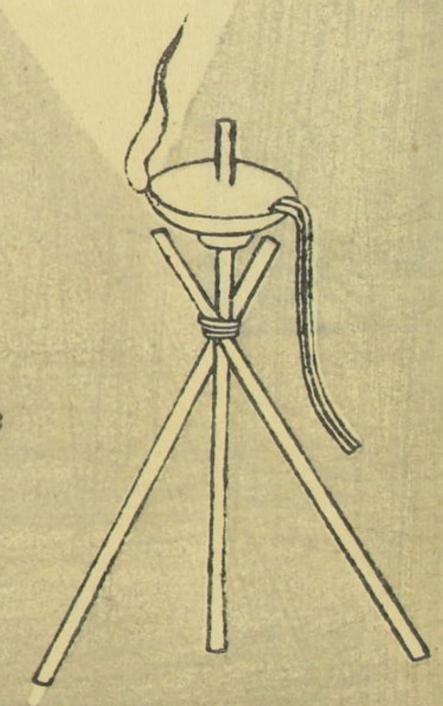


門 へ 13  
 號 3878  
 卷 73

兒雷也  
 豪傑譚

上卷

一 榊の亭作  
 壽多画

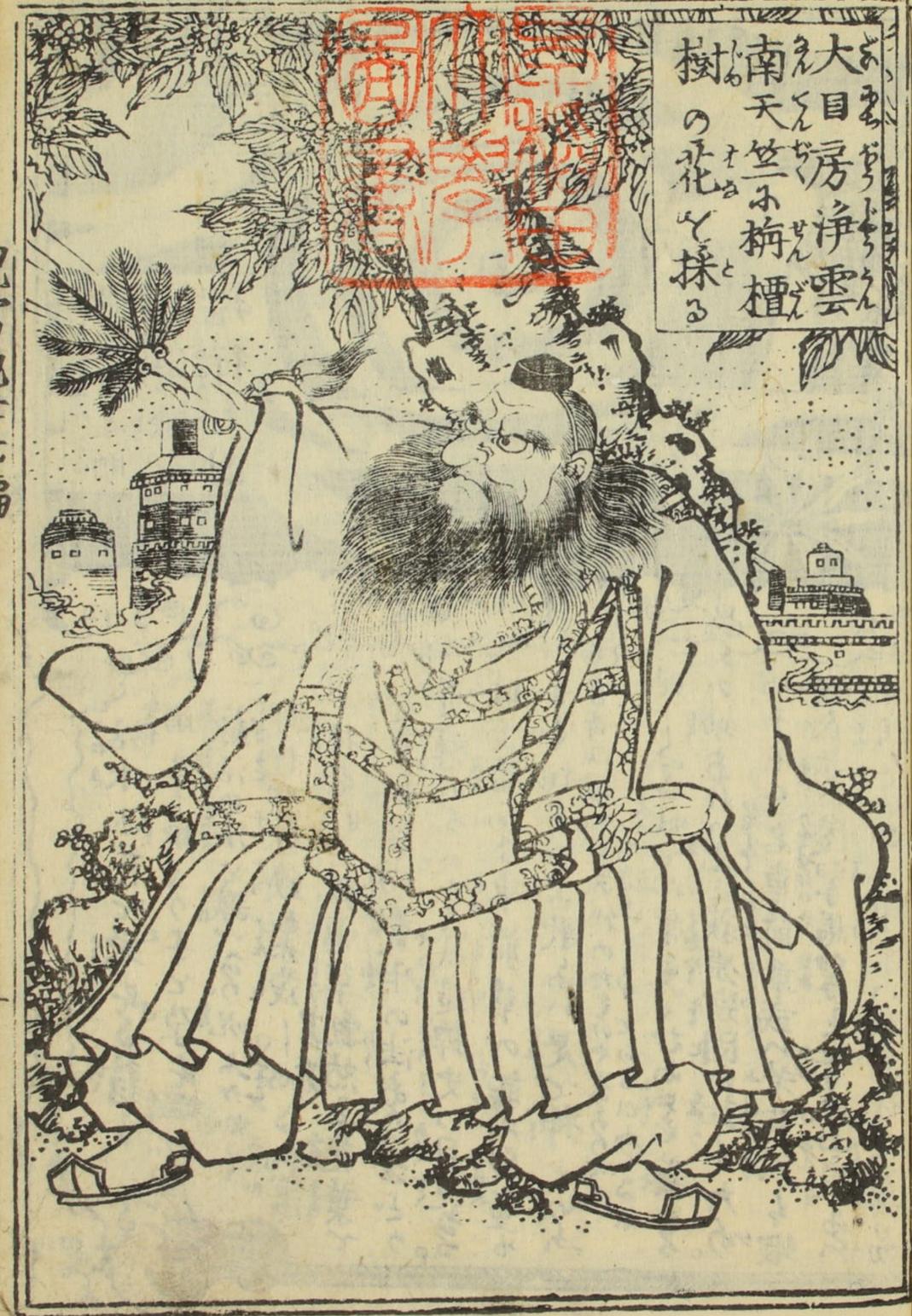


泉市棒



一 榊

大目房浄雲  
 南天竺小梅檀  
 樹の花を採る



田代三郎

飛三松雅  
行方里松  
之里力之  
圖餘を助



古木小花と采る翁も。  
 洞き桃より子と孕を媪も。  
 蘇活の法と識はあり。呪ふ如く  
 釘打ハ蘇鉄板糸茂。心熱湯  
 小投をれを我鳴草勃然と花葉と  
 起と殺禪尚養生の法あり。あとう  
 奇薬のあつて武這禪史の目見る。  
 蛙よ益ある車前草の能ハ兒童も  
 よく知る。古歌あり是は神といふ  
 古歌よ「おんをの林のたをひやありのらん  
 死しるる蛙と此葉よつむふ必を獲る  
 の功あれハ也と萩原宗固の註あり。  
 あんをこ一名車前草或ハ朱昔或ハ蝦  
 蟆衣示ハ陵學馬學と号け山東ゆ  
 牛舌といひ江東ゆかま名と云奥勿

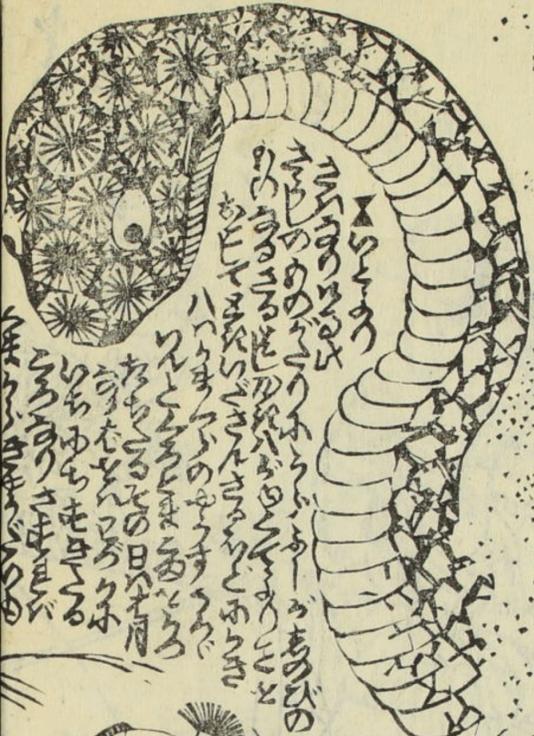
野州の方言あり。何んか呼ぶか  
 とし。和名みねのををといふ心ハ大なる  
 葉みく長き穂ありと爾雅ふる云ハ  
 郭璞より此故也。もて大葉子といふ  
 ねをよむ子の助字あり。時珍が  
 書よハ蝦蟆よりこんこんといふ此  
 下ハあつて伏といふ語と取證と考  
 今。路傍ふ多あるねををといふ。活る  
 驗奇のゆるりの口猫のみまる梅さん  
 花の伊蘭樹の毒と消すくハ説也。  
 山伏乃長大日房が吹るると  
 ち。あがしめすか  
 鳥近元春 初春

柳下亭種員記

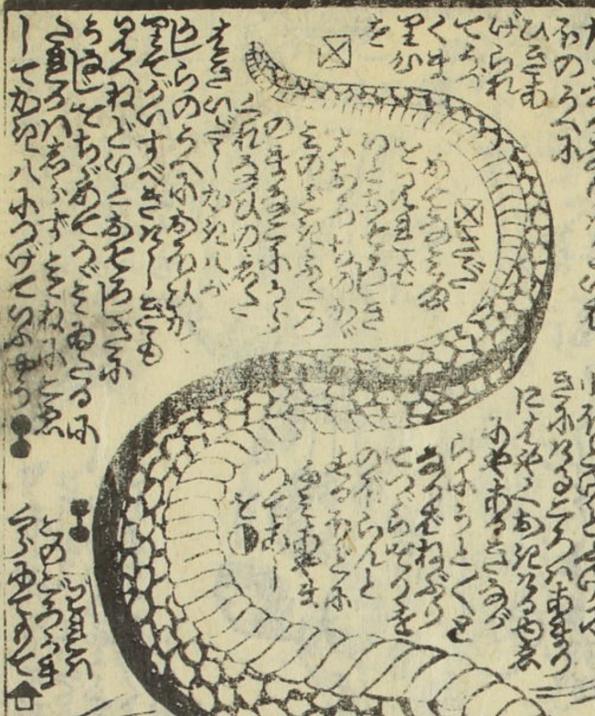




世に伝ふる  
五のまじり  
のりく  
のりく



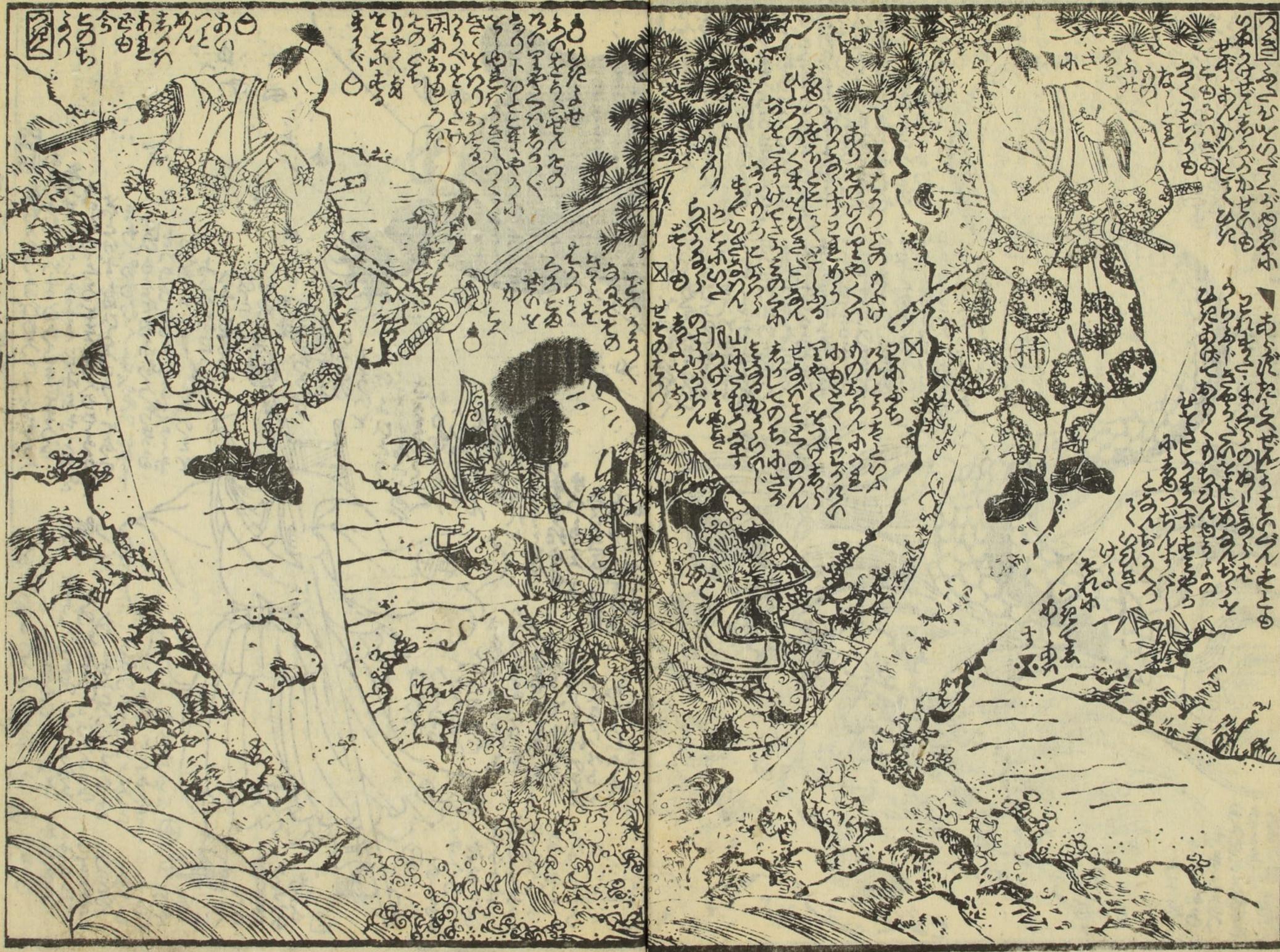
蛇の頭  
蛇の尾  
蛇の腹  
蛇の背  
蛇の脚  
蛇の爪  
蛇の舌  
蛇の歯  
蛇の鱗  
蛇の皮  
蛇の骨  
蛇の肉  
蛇の血  
蛇の汗  
蛇の涙  
蛇の汗  
蛇の涙



蛇の頭  
蛇の尾  
蛇の腹  
蛇の背  
蛇の脚  
蛇の爪  
蛇の舌  
蛇の歯  
蛇の鱗  
蛇の皮  
蛇の骨  
蛇の肉  
蛇の血  
蛇の汗  
蛇の涙  
蛇の汗  
蛇の涙



蛇の頭  
蛇の尾  
蛇の腹  
蛇の背  
蛇の脚  
蛇の爪  
蛇の舌  
蛇の歯  
蛇の鱗  
蛇の皮  
蛇の骨  
蛇の肉  
蛇の血  
蛇の汗  
蛇の涙  
蛇の汗  
蛇の涙



あつめんと  
あまの  
あまの  
あまの  
あまの

あつめんと  
あまの  
あまの  
あまの  
あまの

あつめんと  
あまの  
あまの  
あまの  
あまの

あつめんと  
あまの  
あまの  
あまの  
あまの

あつめんと  
あまの  
あまの  
あまの  
あまの

あつめんと  
あまの  
あまの  
あまの  
あまの

あつめんと  
あまの  
あまの  
あまの  
あまの

あつめんと  
あまの  
あまの  
あまの  
あまの

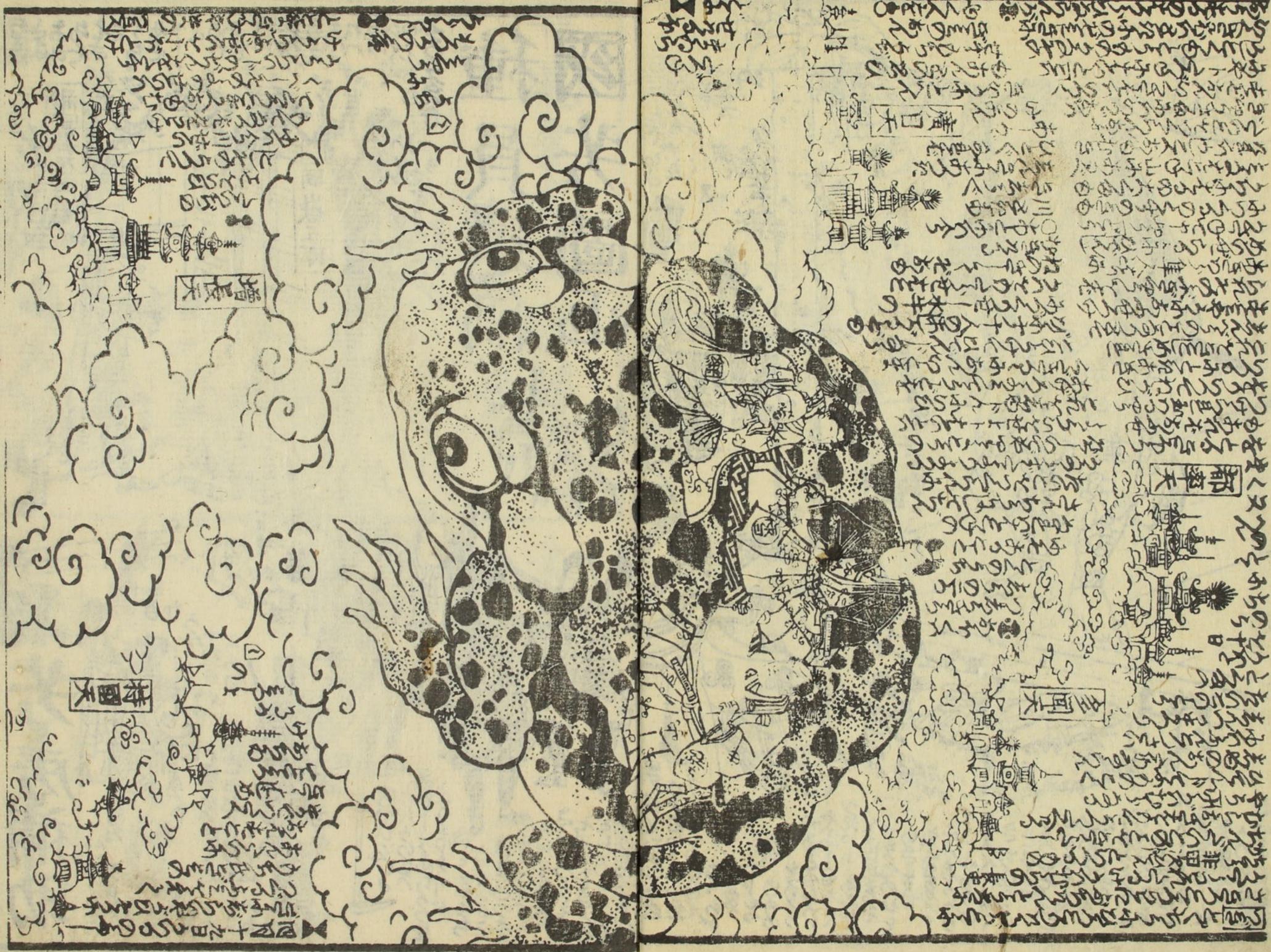












天國山

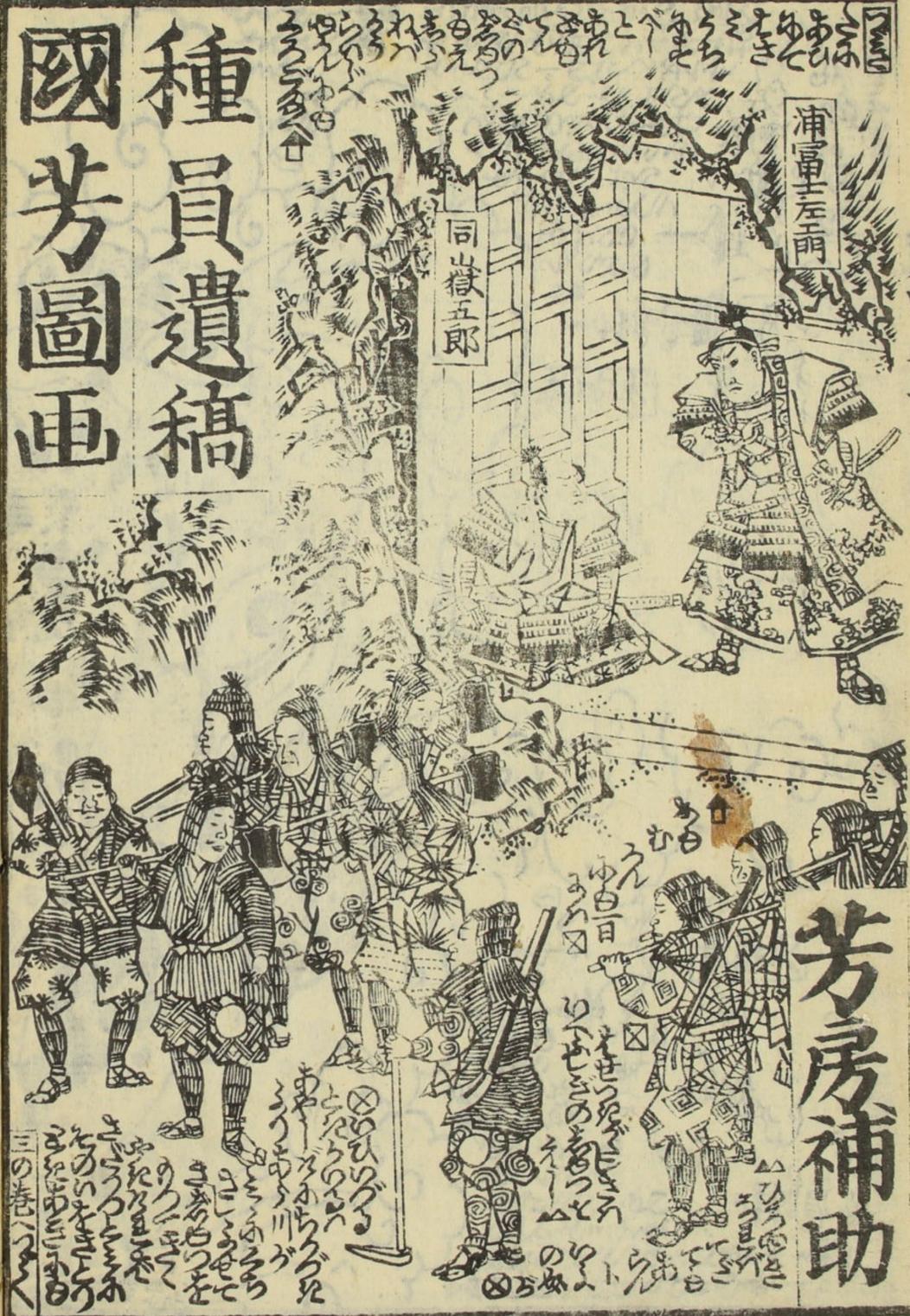
增長天

特國天

廣日天

都察天

金剛天



種員遺稿  
國芳圖画

一 兎雷也豪傑譚  
四拾七篇

二 休草紙  
拾五篇

一 風俗淺間嶽  
拾四篇

一 黄金水大盡盃  
拾七篇

書肆  
地本  
問屋

芝神明前  
和泉屋  
市兵衛

銀座四丁目  
同支店

